音楽科　３学年　学習指導案

令 和8年 １０ 月 ２３日

学習指導者　渡邊　恵莉香

1　題材名　ギターの弾き語りを楽しもう

「中学生の器楽」(教育芸術社)

2　校内研究との関わりについて　※やまなし教育創造推進事業

研究主題　**「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する児童生徒を育成する」**

～組織で QU(WEB)・NINO・学調等のエビデンスや ICT を活用した自己調整学習を通して～

⑴ 標準化検査 WEBQU を活用して組織で「安定と活性化」を両立する学級集団づくりを実現する

・班の３つの機能で安定をつくる（① 居場所　② 目標を達成する組織　③ 非認知能力の育成）

⑵ 認知能力検査 NINO で自分の特性(強み・弱み)を理解し、単元ごと学びを自己調整する

・学びとる力(記憶力、言語能力、数的能力、処理速度、思考力)を活用して深い学びにつなげる

⑶ 単元を貫く言語活動でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する

・個別最適な学びと協働的な学び　（※生徒の多様性を認め、尊重する単元内自由進度学習）

→① 動機付け　② 学習方法　③ 自己調整・粘り強さ

※エビデンスを活用した単元内自由進度学習でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する。

（学習の個性化・指導の個別化）

・「学習キャリアパスポート(GKP)」の活用

・教研式　認知能力検査 NINO、標準学力検査 NRT を活用

・教職員の合理的配慮を一元化した「座席表」活用（WEBQU、NINO、NRT のデータ）

・協働的な学び　（※現状を変え未来を創り出す力）

→① 目標達成のための交流　② 違いを追求し、学びを広げ　③ 深め・創造する

⑴ WEBQU のデータを活用する　※生徒・学級の実態（令和８年６月１６日実施）

※１０月現在の面談・観察の結果から。

学級生活満足群７名

①学級の型　　少人数特別学級

②集団の発達段階　①緊張・混沌→②小集団→③中集団→④大集団→⑤親和的集団

③ルールの定着　５内在化。教師の指示がなくても注意し合う

４教師の指示が少なくてもほぼ適切に行動

３教師が指示すれば行動する

２私事に従うが時間がかかる

１反発され教師の指示が通りにくい

④リレーション　５親和的。全体で本音の共有ができる

４多くが誰とでも交流できる

３小グループ内でそれぞれ中が良い

２不安で形成された小グループと孤立

１グループ間対立・孤立・裏面交流

⑤安定度　５安定化　４固定化　３流動化　２不安定化　１混沌化

⑥活性度　５創造的　４活用的　３遂行的　２停滞的　１不履行

⑦学級集団における優先事項

承　認…生徒同士の配慮と関わりを心掛け、面談や観察を通して一人一人の認知を聞き取り、「本人が実践する場面」「他者から認められる場面」を設定し、承認感を高められるように全職員で協働して指導や支援を行っている。

被 侵 害…話し合い活動のルールは定着している。毎日の話し合い学活や協働学習を通して、不安や緊張感なく発言できるように段階的な学習を仕組んでいる。(個人の考えを形成→班や適したグループで交流→全体で交流)

学習意欲…学習に対する意欲、自身の意見を伝える姿勢においては個人により差がある。個人に適した課題設定をさせ、良さを生かして自分に必要な学びを計画し、学習を進めていくこと(学習キャリアパスポート)で、意欲を向上させる工夫をする。

学習方略…課題解決のために適した他者と言語活動を行い、協働しながら知識を定着させ、一人一人の思考力・判断力を向上させる工夫をする。

⑵ 「班活動」における日常的な取り組み

安定した学級・班の形成は、生徒が自分の考えを自由に表現し、教科の目標を達成するため要な基盤である。生徒同士が互いを尊重し、考えを認め合える学級集団づくりが求められている。WEBQU が目指す複線型の関係性を構築するために、班には以下の 3 つの機能を取り入れている。

① 一人一人の居場所づくり

WEBQU を活用して、生徒一人ひとりの認知を把握し、面談を通じて支援の必要性や配慮事項を明確にする。これらの情報は全職員で共有し、関わり方や配慮の方法について協働で検討・実践をする。また、定期的（短期）に学級満足度調査を実施し、生徒が班に「居場所」を感じているかどうかを確認している。

②目標を達成する組織として機能させる

学級集団が多様性を認め合いながら、目標を達成する公共的な組織として機能することを目指している。生徒自身が課題を見付け、主体的に解決に取り組むことで、集団としての力を高める。課題達成後には、班員の入れ替えや班長の交代、生徒同士の「ゆるくつなぐ」交流機会を増やすことを通じて、人間関係が私的な関わりで固定されないよう工夫する。

② 非認知能力を育成する

「居場所」や「組織」としての機能を通じて、生徒同士が互いの個性を認め合い、本音で感情を交わせる関係性を築く。これにより、公的な場面でも誰とでも関われる人間関係の構築を目指す。

⑶ 学習における生徒の実態

本学級の生徒は、言語能力と処理速度が比較的高く、授業中の発言や意見交換の場面では、他者の意見を踏まえ、自分の考えを表現することができる。また、課題に対して素早く反応し、効率的に作業を進めることができる生徒も多い。

一方で、数的能力と記憶力がやや低く、既習内容の定着や新しい概念の理解に時間を要する傾向がある。そのため、学習内容を関連付けて整理する活動や、考え方を段階的に確認する指導を通して、理解の深化を図る必要がある。言語能力の高さを生かし、自分の言葉で学習内容を説明したり、ペアやグループでの話し合いを繰り返し行ったりし、記憶力や数的能力を補う学習活動を重視していきたい。

3　本題材で扱う学習指導要領の内容

第２・３学年　A表現（２）器楽

ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を工夫すること。

イ（イ）楽器の音色や響きと奏法の関わりについて理解すること。

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。

〔共通事項〕（１）

（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころになる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」）

4　題材の目標

（１）ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方、合奏の技能を身に付ける。（知識及び技能）

（２）リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい表現を創意工夫する。（思考力・判断力・表現力等）

（３）ギターの音色やストロークによる音楽の雰囲気の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。（学びに向かう力・人間性等）

5　題材について

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、第２・３学年の内容A表現（２）器楽　ア器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を工夫すること、イ（イ）楽器の音色や響きと奏法の関わり、ウ（ア）創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能、〔共通事項〕「リズム」に関わるものである。

ギターに初めて触れる生徒がほとんどであり、楽器の基本的な奏法を身に付けつつ、鑑賞等を通じて感じた「好きな音」や「心地よい音」を意識させるようにした。また、自分の演奏と「見比べる」「聴き比べる」といった協働的な学習を行うことで「どのように工夫すれば良い音が出せるのか」「どうすれば曲の魅力を引き出せるのか」などの意見交流を通して自分たちで課題を発見し、上達できるよう支援していきたい。

全国学力学習状況調査の国語の結果より、「４三」、「目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる」の課題を、本題材で必要な、リズムの働きの視点で音楽を捉え、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、書いたり、伝え合ったりする活動を充実させたい。また、「４四」、「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、良い点や改善点を見いだすことができる」の課題を、思いや意図と、創意工夫した演奏表現を伝え合い、互いの表現を批評しアドバイスし合い、自身の表現を見直し改善する活動を充実させたい。

6　教材選択の理由

聴取教材

「翼をください」（作詞：山上路夫、作曲：村井邦彦）

器楽教材

「なごり雪」（作詞・作曲：伊勢正三）※サビ部分

「カントリーロード」（作詞・作曲：B.ダノフ、T.ニヴァート、J.デンヴァー）※サビ部分

「なごり雪」は、G、D、Em の 3 種類のコードで演奏でき、ギターが未経験の生徒でも取り組みやすい楽曲である。コードポジションを覚えたり、コードチェンジを練習したりする教材として扱う。また、「カントリーロード」も、G、D、Em、C の 4 種類の比較的押さえやすいコードのみで弾くことができる。旋律は、狭い音域の中で順次進行中心に作られ、構成する音符の数も少なく、素朴な印象をあたえる。また、細かいフレーズの終わりで長い音が使われ、ギターのストローク次第で曲の印象が大きく変わる楽曲である。「翼をください」を用い、いくつかのストロークパターンの音源を聴き、同じ旋律でもストロークが変わることによって、音楽の雰囲気が変わることを、聴取活動と実際の演奏で実感をもって捉えていきたい。それらの聴取活動で捉えた「リズム」の働きが生み出す特質や雰囲気を生かし、カントリーロードの表現を工夫していきたいと考え設定した。

7　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。	思リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態ギター音色やストロークによる音楽の雰囲気の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

8　NINO のデータを活用する　　◎強みの活かし方　　△課題の補い方

(1) 記憶力

◎過去に考えた「音楽を形づくっている要素」の働きの視点で新たな教材の特徴を捉える。

◎旋律とコードの配置及びコードポジションを記憶し、曲全体の流れから次のコードを判断し、コードポジションによって指の形を変える。

△5 分間ミュージックで、題材に関わる「音楽を形づくっている要素」について、聴き取ったことと感じ取ったことを伝え合う。

(2) 言語能力

◎音楽表現に対する思いや意図を、音や音楽を用いながら伝える。

◎相手の考えを聞く際、発言の内容とともに、どのような根拠を基に発信されているのかを考える。

△音や音楽を伴ったコミュニケーションを図る。

(3) 数的能力

◎ビート内のリズムの構成を、感覚だけでなく数的な視点で捉える。

（4）処理速度

◎楽譜等から読み取った速度やリズムを、楽器で表出する。

△コードネームとポジションを結び付け、すぐ切り替えられる練習を行う。

（5）思考力

◎知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。

◎曲想と音楽の構造との関わりを捉え、思いや意図をもって音楽表現を創意工夫する。

△思いや意図と、創意工夫した表現を聴き合い、他人や自分の演奏を批評したり、自分に取り入れたりする。

８　指導と評価の計画（５時間）

題材を貫く学習課題：

「カントリーロード」の魅力を引き出すためにストロークをどのように生かして表現するか？

時	◆ねらい ○学習内容　　・学習活動	指導上の留意点	評価基準【評価方法】		
			知技	思	態
第一時	◆ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。				
	○ギター独特の音色や響きについて考える。 ・様々な弦楽器の音色を比較聴取し、それぞれの特徴についてまとめる。 ○ギターの音色や響きと奏法との関わりについて捉える。 ・G、D、Em、(C) のコードの押さえ方を覚える。 ・「なごり雪」を弾きながら、基本的な構え方、左手のポジションと弦の押さえ方、右手の奏法を確認する。 ・授業の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認知する。	・模範演奏やデジタル映像を見たり、楽器を提示したりしながらギターの各部の名称を確認させる。 ・実際にギターを持って基本的な構え方を実践させる。			
第二時	◆ストロークの働きが生み出す特質や雰囲気について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。				
	○ストローク奏法を知り、ストロークの仕方による音色の違いを捉える。 ・ダウンストロークとアップストローク及び右手のどの部分で弦を弾くかによって、どのように音色が変わるか試す。 ○ストロークパターンにより、音楽の雰囲気がどのように変わるか考える。 ・３つのストロークパターンで弾いた「翼をください」を聴き比べる。 ・比較聴取で感じ取ったことと、ストロークやリズムの特徴との関わりについて考え共有する。	・始めはコードチェンジはせず、２人ずつに分けそれぞれのコードのみを弾かせ、徐々に増やしていく。	知〈観察・ワークシート・発言〉		

	・授業の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認する。			
第三時	◆「カントリーロード」の魅力を引き出すために、ストロークを生かし音楽表現を創意工夫する。			
	○「カントリーロード」の旋律の特徴を捉え、ストロークを試しながら、どのように表現を工夫すれば、魅力を引き出せるか考える。 ・カントリーロードを歌い、旋律にどのような特徴があるのか考える。 ・ストロークパターンを試し、どのような「カントリーロード」にしたいか思いや意図をもつ。 ○演奏を創意工夫しながら、その根拠について自分の考えをまとめる。 ・旋律の特徴に合ったストロークを、根拠をもって考える。 ・授業の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認知する。	・楽譜、教科書、演奏動画をＩＣＴ等を活用して配布し、学びたい内容に応じて生徒が選択できるようにする。 ・ストロークパターンを途中で一度は変えるよう促す。		
第四時 本時	◆「カントリーロード」の魅力を引き出すために、ストロークを生かし音楽表現を創意工夫する。			
	○ストロークパターンだけでなく、スピードや右手の使い方の工夫について考える。 ・ストロークの右手の振るスピードによっても音楽の雰囲気が変わることを知り、試しながら表現を工夫する。 ・指の腹や爪など、右手のどの部分を使い演奏するか音色と関わらせて考える。 ○思いや意図と、創意工夫した表現を伝え合い、互いの表現を批評し自身の表現を見直す。 ・ペアで、思いや意図を伝え合い演奏し聴き合う。 ・思いや意図が音楽表現として表出されているか判断し、アドアイスし合う。 ・他者の考えたストロークを弾いたり、思いや意図に合いそうなストロークをペアで試す。 ・授業の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認知する。	・弾き語りが難しい場合には、聴いている人が歌うよう促す。 ・様々な振り方を試すことが難しい生徒には、模範を見せたり、仲間のストロークを参考にさせたりする。		

第五時	◆「カントリーロード」の魅力を引き出すために必要なストローク奏法の技能を身につける。		技〈観察・録音〉	思〈観察・ワークシート・録画〉	態〈観察・ワークシート〉
	○前時までに考えた表現で演奏するために必要なストローク奏法の技能を身につける。 ・ストロークパターンに合わせ、ストロークのスピードや強さを試行錯誤する。 ・右手の指のどの部分を使って演奏するか、自分のイメージに合った音色で演奏できるように試行錯誤する。 ・題材全体の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認知する。	・仲間の演奏について、音楽を形づくっている要素を根拠として、自分の言葉で具体的にまとめられるようにする。			

※学習キャリアパスポート・ＮＩＮＯを活用した評価と指導をする。

9　本時の授業について

⑴ 日時　令和８年１０月２３日（金）５校時

⑵ 場所　道志中学校音楽室

⑶ 本時の目標

「カントリーロード」の魅力を引き出すために、ストロークを生かし音楽表現を創意工夫する。

⑷ 本時の展開

過程	学習のねらいと学習活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 15分	**○５分間ミュージック（常時活動）** **○前時の確認をする。** ・前時に試したストロークによる表現方法を確認する。 ・本時の学習内容と方法を個人で選択する。	・ワークシートを参照させる。 ・学習キャリアパスポートを活用する。	・学習形態：一斉
展開 30分 各自のタイミングで必	**○「カントリーロード」を、ストロークパターンだけでなく、スピードや右手の使い方の工夫について考える。** ・ストロークの右手の振るスピードによっても音楽の雰囲気が変わることを知り、試しながら表現を工夫する。 ・指の腹や爪など、右手のどの部分を使い演奏するか音色と関わらせて考える。 **○思いや意図と、創意工夫した表現を伝え合い、互いの表現を批評し自身の表現を見直す。**	・一斉で違いを感受したうえで、どのように創意工夫するか考えられるようにする。 ・フレットを正しく押さえられるかばかりにこだわらないようにさせる。	・学習形態：一斉 個別 協働 【思】リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかに

要なことを考え学ぶ	・ペアで、思いや意図を伝え合い演奏し聴きあう。 ・思いや意図が音楽表現として表出されているか判断し、アドバイスし合う。 ・他社の考えたストロークを弾いたり、思いや意図に合いそうなストロークをペアで試したりする。	・目標を達成するために適した相手と協働できるように促す。	ついて思いや意図をもっている。
まとめ (5分)	**〇本時の振り返りをし、学習目標達成に対してメタ認知する。** ・本時の学びを振り返り、目標に対する学習状況を記述する。 ・次時について見通しをもつ。	・どのようにストロークを創意工夫すれば、「カントリーロード」の魅力を引き出すことができたか、記述させる。	・学習形態：一斉

【音楽科】ＮＩＮＯ　◎　　○　　△　　3年　番　氏名

この単元で身につけるべき力	知・技	・「フレットの押さえ方や弦の弾き方等によって音がどのように変わるか」や、「ダウンストロークやアップストロークによる音色やその効果」について、ギター特有の音色や響きと共に理解している。 ・自分が表現したい「カントリーロード」を演奏するために必要な、ストロークの振り方や弦への指の当て方などの技能が身に付いている。	[知]B:ギターの音色や響き、ストロークによる音色が、演奏や弾き方とどのように関わっているかについて理解した記述や発言をしている。 A:他の楽器とは違うギター特有の音色や響き、ストロークによる音色が、フレットの押さえ方や弦の弾き方などの具体的な奏法とどのように関わっているかについて理解した記述や発言をしている。】 [技]B:自分が表現したい「カントリーロード」を演奏するために必要な、ストロークや弦への指の当て方などの技能が身に付いている。 A:自分が表現したい「カントリーロード」を演奏するために必要な、リズムや音色を生かしたストロークや弦への指の当て方などの技能が確実に身に付いている。	
	思・判・表	・曲の雰囲気とストロークで刻むリズムの特徴の関わりについて考え、「カントリーロード」をギターでどのように表現したいか、なぜそのストロークのパターンで演奏しようと思ったのかについて考えをもって表現している。	[思]B:ストロークで刻むリズムの特徴によって、音楽の雰囲気がどのように変わるのかについて考えたことを根拠に、「カントリーロード」をギターでどのように表現したいか思いや意図をもって表現している。 A:ストロークで刻むリズムの特徴によって、音楽の雰囲気がどのように変わるのかについて考えたことを明確な根拠とし、「カントリーロード」をギターでどのように表現したいかについて具体的な思いや意図をもって表現を工夫している。	
	主体的	・よりよいギターの音色で演奏したり、リズムを生かしたストロークを工夫したりするために、粘り強く学習に取り組み、演奏や考えを他者と共有したり振り返ったりしながら、見直したり試行錯誤したりしている。	[態]B:よりよいギターの音色で演奏したり、リズムを生かしたストロークを工夫したりするために、粘り強く学習に取り組んでいる B:演奏や考えを他者と共有したり振り返ったりしながら、自分の考えを見直したり奏法を試行錯誤したりしている。 A:よりよいギターの音色で演奏したり、リズムを生かしたストロークを工夫したりするために、粘り強く学習に取り組み、さらに、演奏や考えを他者と共有したり振り返ったりしながら、自分の考えを見直したり奏法を試行錯誤したりしている。	

題材を貫く学習課題：　「カントリーロード」の魅力を引き出すためにストロークをどのように生かして表現するか？

時数	1(　/　)	2(　/　)	3(　/　)	4(　/　)	5(　/　)
学習活動(例)	□ 楽器について理解する □ 諸要素の確認 □ Em,D,G,(C)の押さえ方を習得	□コードチェンジを習得する □ストロークパターンによる音色の違いについて自分なりの言葉で表す	□旋律の特徴を知覚・感受する □旋律に合ったストロークを考える	□ 表現したいことを考える □ 他者と協働	□ 自分なりの音楽表現 □ 他者の音楽表現の良さを感じ取る
課題設定					
学習計画					
目標についての振り返り					
本時の評価					

保護者印